



第561号

今月は統一  
会費納入月です

公益財団法人 千鳥ヶ淵  
戦没者墓苑奉仕会  
〒102-0075 千代田区三番町2  
電話 03 (3261) 6700  
FAX 03 (3261) 6712



http://www.boen.or.jp  
郵便振替口座 00140-2-42556

編集人 榊枝 宗男  
発行人 杉本 順則



# 4年ぶりの「さくらまつり」で 賑わう千鳥ヶ淵戦没者墓苑

満開の枝垂れ桜と上皇陛下御製碑に集まる参拝者の皆さん (5.3.27)



海外からの観光客とボート場



桜看板西門  
上皇陛下の碑

緩やかにカーブしたそのお堀のわきには二百六十本の桜の木が植えられている。今年「千代田さくらまつり」が4年ぶりに開催され、その期間中、今年3月24日から4月4日までライトアップが実施されたが、暗闇の中、満開の桜がひとしお映え、又お堀の水面に咲き誇った桜が映し出され、千鳥ヶ淵緑道七百米の桜満開の景色は見事である。今年も千代田区と同観光協会が東京駅北口から墓苑駐車場までノンストップで大型シャトルバスを運行したこともあり、初めて墓苑へ足を踏み入れる人々も多くあった。

でも千鳥ヶ淵戦没者墓苑へと導くため、今年も東西両門に「桜と上皇陛下の碑(御製碑)」の大型看板を設置した。更に、昨年末公開された映画「ラーゲリより愛を込めて」の主演で今、若人に人気のある二宮和也・北川景子さんのポスターを掲示するなどにより若い多くの方々にも総務省所管の戦後強制抑留者・引揚死没者慰霊碑の存在を知っていただけた。今年も桜の開花期間中、約15万人が千鳥ヶ淵緑道を訪問した。墓苑参拝者の中にはインバウンド(外国人旅行者)の姿も散見され今年も墓苑は国際色豊かとなった。上皇陛下の御製碑を前にオーストラリアからの旅行者(30歳代の紳士)は「日本の戦没者の慰霊について大変興味を持った。オーストラリアに近いニュージーランドや東チモールでもまだ帰還できない遺骨を捜索していると聞き感動した。これら英霊の一日も早いご帰還をお祈りしたい」と述べた。観光の名所である千鳥ヶ淵緑道に隣接する墓苑は、単なる観光地でもなく、若者の待ち合わせの場所でもない。戦没者を祀る鎮魂の場所であり、慰霊の誠を捧げる聖苑である。今年「千代田さくらまつり」を契機に千鳥ヶ淵戦没者墓苑を訪れた多くの人が戦没者に心を寄せて頂くことを祈念する。

千鳥ヶ淵、桜花爛漫の4月2日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕茶会(会長・市野昭一氏)主催による春の茶会が4年ぶりに優雅に執り行われた。日頃は緑一色の苑内もこの日は春の奉仕茶会員の皆さんの華やかな和服姿に彩られた。9時丁度、市野会長を先頭に席主表千家流波多野好子先生、遠州流茶道東京支部、江戸千家流伊藤由雪先生、裏千家流岩崎宗恵先生をはじめ各社中の皆さんが列を組んで前屋から墓前へ進まれた。お茶は市野会長によりお菓子のお供えを行った。その後、各席主によりお菓子の供えを行った。その後一同拝礼、慰霊の誠が捧げられた。献茶式の後、苑庭及び前屋内に設けられた野点が繰り広げられ、訪れた人々は長い列をつくって順番を待っていた。この間、苑庭には「ぷらいム」によるテルミン、ギター演奏があり、野点の風情を静かに盛り上げていた。この日のお客は約400名を数えた。

## 春の奉仕茶会



春の茶会席



春の茶会献茶 (5.4.2)

【投稿のお願い】  
テーマ・私たちが  
思う戦没者慰霊  
についての投稿の  
お願い

趣旨：昨年末封切られた二宮和也、北川景子さん主演の映画「ラーゲリより愛を込めて」は若い人たちに戦争の悲惨さ、家族愛、人間とは何かについて深く考えさせる好作品でした。これまでも、「硫黄島からの手紙」「永遠のゼロ」等の映画や小説が話題となったことは記憶に新しいところです。更には昨年2月24日にソ連がウクライナ侵略を開始して早1年が過ぎ、また、台湾危機、北朝鮮のミサイル発射の事態に鑑み、平和な日本を希求する私たちは今日の繁栄をもたらして下さった戦没者の皆さんへ心から感謝すべきと誰しもが思います。

今年度は「私たちが思う戦没者慰霊について」の投稿をお願い申し上げます。例えば、ご自身が観た映画、読んだ小説、書籍から、見て感じたことをご自身の言葉で思い切り書いてみては如何でしょうか。(サンプルとして広報紙「千鳥ヶ淵」3月号の「千鳥ヶ淵より愛を込めて」の投稿記事もありません) 投稿要領：字数1,200字程度(400字詰め原稿用紙3枚) 原稿は、できれば文書ソフトWord(A4縦使用・横書き)で奉仕会へメール送信、または原稿用紙の場合は郵送で頂ければ幸いです。但し、政治的なメッセージ等はご遠慮下さい。令和5年度の千鳥ヶ淵へ順次掲載するほか、令和6年度には投稿文集として無償でお配りする予定です。

- ①原稿のテーマ：○○○○○を見てまたは読んで、②氏名、③住所、④電話番号、⑤メールアドレス等を忘れずにご記入ください。(なお、匿名を希望される場合にはその旨付記下さい。)
- メールアドレス：choushikan@boen.or.jp
- 件名に「私たちが思う戦没者慰霊の投稿・お名前」として下さい。
- 宛先住所：〒102-0075 東京都千代田区三番町2番地
- (公財)千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会 広報担当宛

原稿の締め切りは令和5年11月30日です。



### 解脱会千鳥ヶ淵戦没者墓苑供養祭

3月26日、生憎の冷たい降雨の中、解脱会東京第一教区(教区長・内藤憲一氏)主催の千鳥ヶ淵戦没者墓苑供養祭に会員等約200名が参加し執り行われた。今年で60回目を数える。これまで、本行事は「天茶供養」として知られ、昭和39年より続く解脱会の恒例行事であり、教団の少年少女鼓笛隊による慰霊演奏など昨年に比し規模を拡大して開催された。10時45分に式典が開始され「海ゆかば」の演奏、献花、献納の儀が行われた後、内藤教区長による誦文が奏上され引き続き、天茶供養、来賓挨拶、解脱会本部長挨拶、最後に実行委員長より御札の挨拶があり式典は盛会のうちに終了した。



解脱会本部長挨拶、最後に実行委員長より御札の挨拶があり式典は盛会のうちに終了した。

### 東京葵ライオンズクラブ・50周年戦没者追悼慰霊式典



4月1日、東京葵ライオンズクラブ主催千鳥ヶ淵戦没者追悼慰霊式典が約450名の参加者のもと墓苑にて行われた。式典は午前10時、田上敏式典実行委員長による開会の辞、拝礼が行われた。続いて実施されたオベラ歌手による国歌(3番まで)のアカペラは、その澄み透る歌声が墓苑内の空気をより一層清らかにしたと感ぜさせた。まさに印象に残る君が代独唱であった。その後、黙禱、ライオンズ・ヒム斉唱、全国友好ライオンズクラブから持ち寄られた献水の儀、瀬戸口正之会長の献辞、マーチングバンドの音楽演奏、参列者全員の献花、アクティビティの贈呈、その後、来賓千代田区長の挨拶、伊賀則夫50周年記念大会委員長の閉式の辞で式典は終了した。

した。東京葵ライオンズクラブは結成以来これまで水きにわたって、春には戦没者追悼慰霊式典、秋には会員総出による墓苑清掃奉仕活動を行っている。



追悼慰霊式典、秋には会員総出による墓苑清掃奉仕活動を行っている。

### ピースリング・オブ・グナム・ジャパン「春彼岸参拝」



3月19日、ピースリング・オブ・グナム・ジャパン(理事長・松本平太郎氏)主催の春彼岸参拝が行われた。式典冒頭の開式の辞において内藤副理事長は「上皇陛下の碑と枝垂桜のいわれ」について述べ、次いで黙禱が行われた。その後、松本代表が挨拶後、フルート演奏による「ふるさと」の合唱、尺八による「植生の宿」「ひまわり」の献奏が行われた。最後に参加者全員により献花があり、戦没者に慰霊の誠が捧げられ法要は終了した。

### 富士ダイス(株)役員らの来苑・懇談

1月31日(火)、富士ダイス(株)常務取締役業務本部長(IRR担当)の春田善和氏及び広報IRR部長の山口幸治氏が来苑されご奉納された。富士ダイス(株)の創業者である故新庄鷹義氏(陸軍士官学校49期)から千鳥ヶ淵墓苑奉仕会に対して多額のご奉納をされており、現在では、奥様の初枝夫人がその遺志を引き継ぎ、高額のご奉納をされている。また同社では社員約60余名の方々が奉仕会正会員として入会されており、日頃から戦没者の慰霊と貢献をされている。また同社では社員約60余名の方々が奉仕会正会員として入会されており、日頃から戦没者の慰霊と貢献をされている。



富士ダイス(株)役員らの来苑・懇談の様子。

いる。春田様、山口様との懇談の中で、「初枝夫人は、現在百歳になられてはいるが、毎年会社の者がご自宅へご挨拶に訪れた際には、お元氣な様子で懇談されている」とのこと。また、会社の創立50周年の際には春田様を含み、社員ほぼ全員で墓苑に訪れ参拝したと話されていた。富士ダイス(株)の役員様はじめ社員皆様の高い志に深く敬意を表すとともに、日頃からの奉仕会に対する多大なご支援に対し、心から感謝申し上げる次第です。

### 「かけがえのない日本、かけがえのない世界⑳」

戦没者遺骨収集活動と戦没者慰霊  
JYMA日本青年遺骨収集集団所属  
日本大学2年 清水 陽平

大東亜戦争が終結してから今年で78年を迎える。北はアリューシャン、千島列島そして満洲の果て、南はソロモン、豪州まで。帝国陸海軍の将兵は祖国のため、そして愛する家族のために戦地へ赴いた。その中でも昭和20年4月から6月まで続いた沖繩での戦いは壮絶極まる、まさにこの世の地獄とも言われる戦いであった。この戦いでは軍人・軍属94,136名、民間人94,000余名の方が亡くなり、沖繩島の主要部は焼け野原となり、県民の財産や数多くの文化遺産が失われた。慶良間諸島での戦いを経て、昭和20年4月1日、米軍は沖繩本島の中西部に上陸を始めた。その後、嘉数の戦い、首里の戦いを経て、軍は喜屋武半島での持久戦に移行する。この持久戦こそ、軍民が混合する悲惨な戦いの始まりでもあった。

私は昨年5月、JYMA日本青年遺骨収集集団(以後JYMA)に入団し、本年3月3日初めて遺骨収容に参加した。活動したその地は喜屋武半島の最南端、荒崎海岸であった。事前に戦史勉強や骨格勉強会に参加し、ある程度の知識を身につけた上で参加したが、なかなか要領が掴めない。しかも3月と言っても、場所が沖繩だ。滴る汗に耐えながら、鬱蒼

と茂った密林のなか、丸一日の活動を何日も行う。しかしそのような環境であっても、活動する私たちには十分な装備や食料、そして休養の時間が与えられている。同じ地で戦没された将兵、そして民間の方々は衣服や食料、医薬品も満足にない中、米軍の砲撃に怯えながらじつと堪え、そして戦われていたのだ。そのようなことを思うと、何か不満を感じたことがあったとしても口には言えない。

活動初日、沖繩特有の石灰岩周辺をスコップで掘っていると、何か白い塊が何点か現れた。塊の表面に付着した泥を丁寧に拭き、改めてそれを見てみると「人間の歯」であった。私たちに生えている歯と何ら変わらない、エナメル質が輝く綺麗な「人間の歯」であった。私はこれに大変な衝撃を受けた。戦後76年を経ても、何ら変わらぬ状態で存在するもの。一緒に活動した自衛官の方から教えていただいたことだが、歯の裏側がスコップ状にくぼんでいるのは日本人特有だそう。私が発見した何本かの歯はいずれもくぼみがあり、沖繩戦で非業にも亡くなった同胞の人体の一部なのだ。これが軍人・軍属の方のものなのか、それか民間人のものなのか、その判定をする事はできない。しかし、ここに改めて戦争の非情さとその過ちの大きさを実感せざるを得ない。そして未だ残されている数多くのご遺骨の事を思うと、ただ申し訳なく、日本人として恥ずべき事だと感じる。

私たちJYMAは、「戦没者遺骨収集活動」と「戦没者慰霊」を目的に活動している。この活動と広報により、世界各地に残されている戦没者のご遺骨という存在を少しでも知っていただけたらと思ひ、ここに筆をおく。

から78年という月日が流れ、もはやその痕跡は残っていないと当時は考えていた。しかし、依然として日本へ帰国を果たせていない、ご遺族のもとへ帰ることができない、ご遺骨が各戦地に留まっていることを知り、JYMA日本青年遺骨収集団の一員として活動をしたかった。そのため、令和3年に行われた沖繩自主派遺骨収集活動に参加した。沖繩自主派遺骨収集は、一柱でも多くご遺族のもとへ返すことであつた。戦後から長い月日が経ち、ご遺族の高齢化が進んでいるためであるからだ。そのためにも、戦史や骨格の勉強を行い、より一層気持ちを高めて沖繩へ臨んだ。

### 「かけがえのない日本、かけがえのない世界㉑」

沖繩での活動初日、糸満市荒崎海岸での活動中に遺骨の近くから遺留品である十銭が発掘された。この十銭は家族が兵士に苦戦(九銭)を乗り越えるために渡すものだというお話を聞き、込み上げるものを感じた。ご遺骨を何としてもご家族のもとへ返したいという思いがより強まった。その後も、日を重ねることに銃弾や万年筆などの遺留品やご遺骨のかけらが発見するもなかなか成果を上げられなかった。大きな発見があつたのは活動最終日だった。本腰を入れて活動していた地点から数メートル離れた場所で見つかったのだ。この場所から複数人が折り重なって亡くなったかのように、頭蓋骨の近くからは大腿骨が出てきた。その光景を目にして改めて沖繩が激戦地であり、兵士だけではなく民間人も多く巻き込まれたことを実感し、何とも言えない感情になった。また、その地点ではご遺骨が残っていたが、活動日程の都合により切りの良いところで終わりになってしまったことが悔しかった。最終的には計5柱のご遺骨をお迎えし、活動は終了した。

初めての遺骨収集活動であつたが非常に多くのことを学ぶとともに、今ある幸せな生活はかつて日本のために、家族のために戦って散っていった先人がいたためだと痛感した。また一方で、ご遺骨を掘り起こすことが本心に正しいことであるのか疑問に思うこともあつた。ご遺族が帰還を願っていることもあれば、そのまま眠らせて欲しい方もいることを知り、改めて遺骨収集活動の意義とは何であるかを考えさせられた。特に、活動後に行われるミーティングでは、各隊員が様々な思いを巡らせていることが印象に残っている。ただ一言で済ませることは、先人への慰霊と感謝の気持ちを忘れたいいけないことだ。戦後76年が経ち、戦争を経験した世代が少なくなり、人々から戦争の記憶が薄れている。私は遺骨収集活動を通して、慰霊と伝承を次の世代に伝えていければと思っている。

私が発見した何本かの歯はいずれもくぼみがあり、沖繩戦で非業にも亡くなった同胞の人体の一部なのだ。これが軍人・軍属の方のものなのか、それか民間人のものなのか、その判定をする事はできない。しかし、ここに改めて戦争の非情さとその過ちの大きさを実感せざるを得ない。そして未だ残されている数多くのご遺骨の事を思うと、ただ申し訳なく、日本人として恥ずべき事だと感じる。

私たちJYMAは、「戦没者遺骨収集活動」と「戦没者慰霊」を目的に活動している。この活動と広報により、世界各地に残されている戦没者のご遺骨という存在を少しでも知っていただけたらと思ひ、ここに筆をおく。

「かけがえのない日本、かけがえのない世界㉒」  
英霊に感謝  
匿名希望

戦争に行つた父が言ったことを覚えている。「大東亜戦争(太平洋戦争。大東亜戦争は日本が名付けた戦争名。太平洋戦争は敵国が名付けた戦争名)に日本は敗けたけれど、白人が支配していた植民地からたくさんのお金が独立を助けた。だから独立した国々は心から日本に感謝しているんだよ。」

母の弟は妻子を残しフィリピンで戦死した。私の妻の父の兄は陸軍、下の兄は海軍に行き戦死した。だから私は靖國神社に参拝するときは、三人の英霊の名前を読み上げて、日本の国を守つていただいた御礼を申し上げる。

私の自宅から1kmのところに「殉国英霊碑」が建立されている。石碑のうしろには村の地名と英霊の名前が一人一人お一人刻まれている。刻まれているお名前を読んでいると自然と私の息子の顔が浮かんで涙が流れてくる。

私の住んでいる埼玉からは、西は富士山、東は筑波山、北には群馬の山々を望むことができる。限りなくすき通る青空、山紫水明の国、美しい国日本。私は心からそう思う。

この美しい国を守つてくれてありがとうと英霊に感謝申し上げる。

戦争はしてはいけない。しかし、一旦緩急あれば国のために命をすてて働くことは日本男児の心意気だ。

大和魂の雄々しさだ。

日本男児はみな、英雄でありたい。

いざという時のために、一人一人がそれぞれの仕事に精を出して努め励み、徳をみがきあげて、立派な人間に、日本人になりたい。と、私自身に叱咤して英霊のたどった辛酸困難を思い、日々を過ごす覚悟である。

私が発見した何本かの歯はいずれもくぼみがあり、沖繩戦で非業にも亡くなった同胞の人体の一部なのだ。これが軍人・軍属の方のものなのか、それか民間人のものなのか、その判定をする事はできない。しかし、ここに改めて戦争の非情さとその過ちの大きさを実感せざるを得ない。そして未だ残されている数多くのご遺骨の事を思うと、ただ申し訳なく、日本人として恥ずべき事だと感じる。

私たちJYMAは、「戦没者遺骨収集活動」と「戦没者慰霊」を目的に活動している。この活動と広報により、世界各地に残されている戦没者のご遺骨という存在を少しでも知っていただけたらと思ひ、ここに筆をおく。

私が発見した何本かの歯はいずれもくぼみがあり、沖繩戦で非業にも亡くなった同胞の人体の一部なのだ。これが軍人・軍属の方のものなのか、それか民間人のものなのか、その判定をする事はできない。しかし、ここに改めて戦争の非情さとその過ちの大きさを実感せざるを得ない。そして未だ残されている数多くのご遺骨の事を思うと、ただ申し訳なく、日本人として恥ずべき事だと感じる。

私たちJYMAは、「戦没者遺骨収集活動」と「戦没者慰霊」を目的に活動している。この活動と広報により、世界各地に残されている戦没者のご遺骨という存在を少しでも知っていただけたらと思ひ、ここに筆をおく。

私が発見した何本かの歯はいずれもくぼみがあり、沖繩戦で非業にも亡くなった同胞の人体の一部なのだ。これが軍人・軍属の方のものなのか、それか民間人のものなのか、その判定をする事はできない。しかし、ここに改めて戦争の非情さとその過ちの大きさを実感せざるを得ない。そして未だ残されている数多くのご遺骨の事を思うと、ただ申し訳なく、日本人として恥ずべき事だと感じる。

私たちJYMAは、「戦没者遺骨収集活動」と「戦没者慰霊」を目的に活動している。この活動と広報により、世界各地に残されている戦没者のご遺骨という存在を少しでも知っていただけたらと思ひ、ここに筆をおく。

「かけがえのない日本、かけがえのない世界㉓」  
英霊に感謝  
匿名希望

戦争に行つた父が言ったことを覚えている。「大東亜戦争(太平洋戦争。大東亜戦争は日本が名付けた戦争名。太平洋戦争は敵国が名付けた戦争名)に日本は敗けたけれど、白人が支配していた植民地からたくさんのお金が独立を助けた。だから独立した国々は心から日本に感謝しているんだよ。」

母の弟は妻子を残しフィリピンで戦死した。私の妻の父の兄は陸軍、下の兄は海軍に行き戦死した。だから私は靖國神社に参拝するときは、三人の英霊の名前を読み上げて、日本の国を守つていただいた御礼を申し上げる。

私の自宅から1kmのところに「殉国英霊碑」が建立されている。石碑のうしろには村の地名と英霊の名前が一人一人お一人刻まれている。刻まれているお名前を読んでいると自然と私の息子の顔が浮かんで涙が流れてくる。

私の住んでいる埼玉からは、西は富士山、東は筑波山、北には群馬の山々を望むことができる。限りなくすき通る青空、山紫水明の国、美しい国日本。私は心からそう思う。

この美しい国を守つてくれてありがとうと英霊に感謝申し上げる。

戦争はしてはいけない。しかし、一旦緩急あれば国のために命をすてて働くことは日本男児の心意気だ。

大和魂の雄々しさだ。

日本男児はみな、英雄でありたい。

いざという時のために、一人一人がそれぞれの仕事に精を出して努め励み、徳をみがきあげて、立派な人間に、日本人になりたい。と、私自身に叱咤して英霊のたどった辛酸困難を思い、日々を過ごす覚悟である。

私が発見した何本かの歯はいずれもくぼみがあり、沖繩戦で非業にも亡くなった同胞の人体の一部なのだ。これが軍人・軍属の方のものなのか、それか民間人のものなのか、その判定をする事はできない。しかし、ここに改めて戦争の非情さとその過ちの大きさを実感せざるを得ない。そして未だ残されている数多くのご遺骨の事を思うと、ただ申し訳なく、日本人として恥ずべき事だと感じる。

私たちJYMAは、「戦没者遺骨収集活動」と「戦没者慰霊」を目的に活動している。この活動と広報により、世界各地に残されている戦没者のご遺骨という存在を少しでも知っていただけたらと思ひ、ここに筆をおく。

私が発見した何本かの歯はいずれもくぼみがあり、沖繩戦で非業にも亡くなった同胞の人体の一部なのだ。これが軍人・軍属の方のものなのか、それか民間人のものなのか、その判定をする事はできない。しかし、ここに改めて戦争の非情さとその過ちの大きさを実感せざるを得ない。そして未だ残されている数多くのご遺骨の事を思うと、ただ申し訳なく、日本人として恥ずべき事だと感じる。

私たちJYMAは、「戦没者遺骨収集活動」と「戦没者慰霊」を目的に活動している。この活動と広報により、世界各地に残されている戦没者のご遺骨という存在を少しでも知っていただけたらと思ひ、ここに筆をおく。

私が発見した何本かの歯はいずれもくぼみがあり、沖繩戦で非業にも亡くなった同胞の人体の一部なのだ。これが軍人・軍属の方のものなのか、それか民間人のものなのか、その判定をする事はできない。しかし、ここに改めて戦争の非情さとその過ちの大きさを実感せざるを得ない。そして未だ残されている数多くのご遺骨の事を思うと、ただ申し訳なく、日本人として恥ずべき事だと感じる。

私たちJYMAは、「戦没者遺骨収集活動」と「戦没者慰霊」を目的に活動している。この活動と広報により、世界各地に残されている戦没者のご遺骨という存在を少しでも知っていただけたらと思ひ、ここに筆をおく。

「かけがえのない日本、  
かけがえのない世界③」  
残された家族の生活

匿名希望

昭和19年3月に父は召集されました。その日から乳飲み子を抱えた母の苦勞が始まったのです。弟は10月に生まれましたので父が居たことは知りません。片言を話すようになった頃、「父ちゃん買って」と言ったそうです。

弟が生まれてからの母は、3人の子供を育てることになりました。1年くらいは父が残したお金で生活できたそうですが、そのお金もなくなり弟を背負って古着や布きれを買いに各村を歩いていった時のことです。ジイジが「雀を追い払うために田んぼに下げてある布きれを持って行こう、お金一杯儲かっから」と言ったそうです。

一家心中を考えたこともあったようです。終戦後、東京の経済が少しづつ回り始め、農家から米を運ぶ担ぎ屋が働き出したのが昭和23年から24年頃だったと思います。一度だけ母について東京に来たことがあります。上野駅のトイレの臭いが動物の死骸のような臭いがありました。75年経ったいまでも鼻について忘れられません。

父が戦死したのは昭和20年の6月ですが、遺骨が還って来たのは24年の夏だったと思います。引き取りには母の代わりに私が行きました。箱に入っていた中は小さな紙切れでした。あの元氣な父がただの小さな紙切れに変わってしまったのかと思うと「泣くこともできない」と母は言っていました。

国から配給になった食べ物油は絞った後の豆かすでした。食べられるものはお米と交換して頂きました。農家の方は家畜の餌にしたそうです。

配給を受け取りには私が行っていました。母は3人の子供を養うために、一日も休まず働いていたからです。その母のお陰で一人前に成長できたことに

感謝しております。

国からのお話でフィリピンを巡る慰霊の旅に参加でき、穏やかで美しい島々と温かな人々に会えたことで、父の戦死について疑問に想っていた気持ちが晴れたような気がしました。戦地であっても敵が攻めてこない時間があったでしょうし、そのような時は父もあの美しい風景を眺めて「ホッ」として、穏やかな気持ちになれたのではないかと思います。世界中の国を巻き込んだ戦争をしてしまった日本です。多くの国の方が苦しい生活をなさったことでしょう。そのことを肝に銘じながら今の平和で豊かな生活に感謝し、日々精進していきたいと思っております。



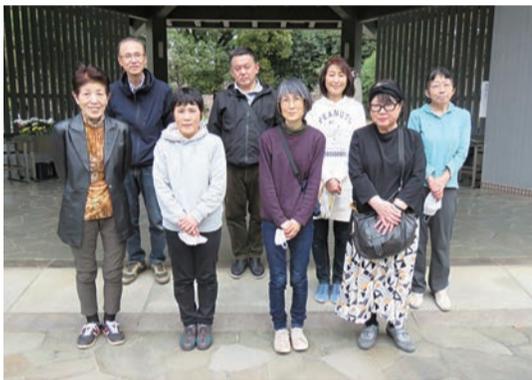
取手市歩こう会 (5.2.4)



比島みたま会 (5.3.12)



喇叭保存会 (5.3.12)



阿含宗清掃奉仕 (5.3.12)



水交会月例参拝3月 (5.3.16)



横浜市遺族会 1 Gp (5.3.17)



横浜市遺族会 2 GP (5.3.17)



横浜市遺族会 3 Gp (5.3.17)



喇叭伝承会 (5.3.19)



清掃ボランティア (5.3.18)



世田谷区遺族会 (5.3.24)



普明会教団月例参拝 (5.4.7)

各団体の慰霊参拝

- ◎奉納、参拝団体・参拝者(敬称略、順不同)  
横浜市遺族会、狛江町遺族会、比島みたま会、姫路市遺族会、浜松市遺族会、磐田市遺族会、蒲郡市戦没者慰霊奉賛会、普明会教団丸山教団の花会、ピースリング・オブ・グアム・ジャパン、水交会、全国警親連合会、帝國華道院研究部、秀平良子、柴田米実、ブラジリアン、廣川剛秀、米原恭淳、藤原信子、酒井治雄、阿曾沼孝仁、阿曾沼美栄子、安藤幸子、中沢誠、春江、鈴木雄一、須藤正典、高橋智也、松田佳高、木村義彦、奥津典子、内藤憲一、吉田佳和、原勝、酒井治雄、大谷公重、倉橋源四郎、一美、斎藤真一、高梨靖、山田盛和、菅 恭、北原一、齊藤和雄、大館正男、西澤 恭、橋本嘉市、浜田誠二、堤 麗子、阿部敏彦、野谷幸夫、太田聡、梶田 誠、織田明子、安田圭一、河村尚美、塩谷文洋、石井信子、大熊俊也、梶原剛志、塩見久恵、吉川和子、野谷岳史、鈴木喜世子、鈴木英己、三室のりこ、小林和恵、山根光一、高木一史、枝莉子、澤田 藤、太田幸子、古田島雄太、日原久仁、佐藤崇行、繁田雄治、河村知子、相場雅仁、林 幸彦、増澤和幸、増澤 薫、福浦聖子
- ◎奉仕会(敬称略、順不同) (団体・個人)  
坪倉君代
- ◎新入会員(敬称略、順不同)  
浅見浩一、仙頭 泰、和田勝幸、町田純一、新角卓也、永田 隆、横矢美恵子、岩浅博之、田中延亨
- ◎参拝団体(前項以外、敬称略、順不同)  
倉敷市遺族連合会、喇叭保存会、喇叭伝承会、千代田区海洋少年団
- ◎清掃奉仕(敬称略、順不同)  
阿含宗清掃奉仕、清掃ボランティア奉仕会
- ◎献花台奉仕(敬称略、順不同)  
古流わかば会(武藤理春、武藤理高、高橋理京、秋葉理恵、丸山理宛、金澤理代)古流茂風会(大藤茂風、鈴木泉風、高橋里風、柏崎明風、国際華道如心流(新井禮心、片桐心、吉見 恵峯、鈴木淑峯)草翠流(黒須泰斗、黒須彩織、林 聖子、鮫島亨子、原 房江)

### 管理事務所齋藤宣明さんへのインタビュー

環境省管理事務所へのご就職と先般沖繩での遺骨収集に参加されたことについてお聞きします。

Q1:千鳥ヶ淵戦没者墓苑管理事務所への就職された時のお気持ちを聞かせて下さい。

A1:毎日ご英霊に対して感謝をしながら仕事ができる喜びと以前に収容したご遺骨が納骨堂に入られているのでご英霊の方々に私の仕事を見て頂きたかったことの2点です。

Q2:毎朝の国旗掲揚時のお気持ちはいかがでしょうか。

A2:私自身、これまで国旗掲揚を行う仕事はありませんでした。国旗を掲揚することで日本を誇りに思い、国旗掲揚塔が高く上がった日の丸を37万のご英霊が見られてると思うと身が引き締まる思いがします。国歌「君が代」を斉唱しながら掲げています。



齋藤さん 国旗掲揚

Q3:先日、沖繩での遺骨収集作業にボランティアとして参加された時のことをお聞かせ下さい。

A3:今回行った場所は、沖繩県豊見城市にある旧海軍司令部壕です。立ち入り禁止場所の部分の通路と通路を繋げる作業です。土を全て掻き出し、土の中からご遺骨、遺留品を丁寧に探し、何もなければ土嚢袋へ。この繰り返し作業です。私は常々どうして遺骨が残っ



旧海軍司令部壕

ているの? 何で命を懸けて日本を守ってくれた方々を放っておく? と今

の子供たちから質問されたら:何も言えませんが。もしも、遺骨収集にご興味がある方は私までご連絡ください。今も暗く冷たい場所です。待っている多くの人々がいらつしやいますから。



花手水 (5.3.4)

### 清掃ボランティアの アミットさんへインタビュー

毎月恒例の墓苑清掃ボランティアで休日來苑され、墓苑の美化に多大の貢献をされているインド人のアミットさんへインタビューしました。



アミット セルブアムさん インド (5.3.26)

Q1:清掃ボランティアへ参加の動機をお聞かせ下さい。

A1:私は、これまで災害復興支援、東京オリンピック、東京マラソン等の応援スタッフとしてボランティア活動に参加して参りました。ここ千鳥ヶ淵戦没者墓苑の清掃ボランティアには私の友人が誘ってくれました。以前から千鳥ヶ淵戦没者墓苑を無名戦士の墓として興味を有していましたので、時間の許す限り清掃活動に参加して参りたいと思います。

Q2:母国のインドにおいても国立の無名戦士の墓があると思いますが、教えてください。

A2:私の知っているインドの有名な無名戦士の墓はナンディヒルズカーマタカ、ニューデリー、ロングワラ、ガウハッテイサムなどにあります。日本の岸田総理がインド訪問時、戦争記念墓地にて献花されたニュースをテレビで観ました。本当にありがたいことです。

Q3:アミットさんから千鳥ヶ淵戦没者墓苑に関してご意見をお聞かせください。 A3:初めてここを訪れた時には強烈

な印象を得ました。それは素晴らしい施設で、参拝者を温かく迎え、平和への祈りを捧げる打って付けの場所だと思います。それ故に墓苑との縁を維持させて頂いています。

Q4:ご経歴をお知らせ下さい。

A4:今年50歳を迎えましたが、インドのIT専門のコースを卒業し、19年間インドでITソフトウェア開発、ITインフラ開発を手掛け、その後日本で11年間IT分野での経験を積み、今ではどんな要求でも対応できます。外国の企業開発アドバイザーもしております。

Q5:最後に、千鳥ヶ淵戦没者墓苑へのご希望があればお知らせ下さい。

A5:色々な活動を通じて墓苑に貢献して参りたいと思いますので、皆さんよろしくお願ひします。

### 墓苑便り(奉仕会だより)

1 5/6月献花の予定

- 柴山古流・緑山流 井上 冷美
- 五十鈴古流一暁派 蟹江 一艸
- 古流正華道 芦沢 千啓
- 京葉古流 小浦 一條
- 古流桜会 本加 理威
- 柴山古流・緑山流 沼田 冷笑
- 都古流一孝会 内田 一孝
- 和光古流 高橋 理淳
- 和光古流 汐満 理和

2 令和5年度秋季慰霊祭について  
当奉仕会主催の秋季慰霊祭を次のとおり開催する予定です。

日時 10月18日(水) 13時から  
行事内容 各種奉納行事(献茶、御製奉誦、唱歌奉唱等)、自衛隊の部隊による拜礼等

3 会費の納入について  
既に昨年9月号でお知らせ致しましたとおり、今年度から全ての正会員及び特別会員は会計年度(4月から翌年3月)を基準として会費を徴収させていただきます。

## 宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。



移動採血車

全国各地で運行している献血バスを寄贈



ベンチ

全国の公園緑地等にベンチを設置



フラワープランター

観光地の環境美化活動の推進を目的として寄贈



宝くじ桜

日本全国にさくら若木を寄贈



車いす

博物館利用者のために車いす等を寄贈



一輪車

体力づくり実践校等に一輪車を寄贈



バス停留所施設

バス停上屋と風防施設を設置



すこやか広場

こどもの国(神奈川県)に健康器具や遊具を設置



検診車

胃部・胸部X線撮影車として寄贈

宝くじは、少子高齢化対策、災害対策、公園整備、教育及び社会福祉施設の建設改修などに使われています。



一般財団法人日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人 **日本宝くじ協会**  
<https://jla-takarakuji.or.jp/>

この刊行物は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。